・ 〇南洋植物ニ關スルノートカラ (津山 尚)

1) 先日臺北帝大ノ細川隆英氏が東カロリン方面=採集ノ途中、小生ヲ訪ネテ吳レテ、植物園 2一室デ會談ノ一時ヲ送ツタ。ソノ時 小生が發表シタ Spathiphyllum funereum TUYAMA ハ既ニ初島住彦氏が發表シテキルモノト同ジモノデハナイカト注意ヲ受ケタ。寝耳ニ水デ鷲イテ、早速調ベテ見ルト全ク同氏ノ言フ通リデ、小生ノハ無駄ナ名デアツテ、事變下ノ紙不足ノ際ニ誠ニ申譯がナイ次第デアル。小生がパラオ本島デコレヲ採集シタ時ニ、ソノ地ノ某氏カラ、未が誰モコノモノノ開花シタ標本ヲ採集シタコトハナイト言ハレテ、ソレヲスツカリ信ジ込ンデキタノデ、外國ノ文献バカリ調ベテキテ、燈臺ノ下ヲ拔カツテキテコノ誤リニ落チタノダツタ。後デ見レバ自分/ミクロネシア植物ノメモニモチャント載セテキルコトが判ツタが、先入主ト言フモノノ何ト恐ロシイ事コト思フ許デアル。即チ

Spathiphyllum micronesicum HATUSIMA in Journ. Jap. Bot. 15, p. 19, fig. 1(1939). Syn. Spathiphyllum funereum TUYAMA in Journ. Jap. Bot. 16, p. 194 (1940); syn. nov.

- 2) ミクロネシアノト 言っ意味ノラテン語ハ上ノ綴リノ 通リノ micronesicus ト他 = micronesiacus トアル。前者ハ金平教授ノ Pipturus micronesicus KAN., Helicia micronesica KAN. (コレハ Finschia micronesica KAN. ト組合セヲ變更サレ、更=最近 Grevillea micronesiaca (KAN.) SLEUMER ト綴ヲナホシテ組合ガ變ヘラレタ。)、Sideroxylon micronesicum KAN. 等ガアリ、後者ハ SCHLECHTER ノ Aglossorhyncha micronesiaca SCHLTR., Pseuderia micronesiaca SCHLTR., Bulbophyllum micronesiacum SCHLTR., Spathoglottis microneciaca SCHLTR., Vrydagzenia micronesiaca SCHLTR. 等ガアル。 文法的=言ヘバ後者ノ方ガ正シイガ、前者ノ綴ヲ orthographic error トシテ直シテ用フベキカ如何ナモノデアラウカ。
- 3) おほばはまあさがほノ學名ハ Stictocardia campanulata (L.) House in Muehlen. bergia 5, p. 72 (1909) デアル。MERRILL ハ全然獨立 = Stictocardia campanulata (L.) MERRILL in Philip. Journ. Sci. 9, p. 133 (1914) ヲ酸表シタガコノ方ハ前者ノ異名トナル。一部ノ本 = MERRILL ガ House ノ名ヲ Philip. Journ. Sci. =後ニ引用シタ様ニ書イテアルノハ正確デナイ。コノ引用ノ仕方ハ MERRILL 自身ガ Enum. Philip. Fl. Pl. 3, p. 372 (1923) デ始メタモノラシイ。コノ種名ハ Ipomoea campanulata L. =基イタモノデアル。コレ=對シテ最近 Argyreia campanulata (L.) Alston in Trimen, Hand-Book Fl. Ceyl. 6 Suppl. p. 201 (1931) ナル組合せガ出テキル。Stictocardia ト Argyreia ハ多クノ點デ似テキルが、前者ニハ葉ノ裏=多クノ腺點ガアツテ、ひるがほ科ノ植物ニハ珍シイ特徴ヲ有スル上ニ、果實ガ熱スルトキニ専片が非常二大形ニ且厚質ニ酸達シテ満ヲ包ンデシマフノデ、ヤハリ兩者ハ別屬トシテ Stictocardia ヲ認メタ方ガヨイト思フ。
- 4) <u>ミクロネシア</u>デ現在 Operculina peltata (L.) HALLIER fil. デ知ラレテキル楯形葉 ラ有スル大形/ひるがほ科/蔓植物ハパラオ諸島/一部デハ、森林上層ヲ覆ヒ立派ナモ/デアルガ、コノモノハ Merremia peltata (L.) MERRILL, Interpret. RUMPHIUS Herb. Amb. p. 441 (1917) ノ方ガ正シイ。 Operculina 屬ハ繭ガ operculate スル性質ヲ持ッテ

キル。日本産デ眞=本屬=入ルモノハ廣分布性ノ Operculina Turpethum S. Manso, ふらせんあさがほダケデアル。 小生ハ未ダコレノ生キタモノラ見ル機會ラ得ナカツタガ、幸ニシテ Ipomoea 及ビ近縁屬ヲ研究シテ居ラレル、廣島高校ノ渡邊清彦教授ガ臺灣カラ持チ驊ヘラレ、廣島デ開花結實シタモノニツイテノ觀察ヲ小生ニ寄セラレタ。 ソレニヨルト「蒴ノ皮ハ薄イ内皮ト外皮トヨリナリ、初メ外皮ハ下半分褐色、平滑縱ノ條紋アリ。外皮ノ上半分ハ暗緑色デ點皺アリ。 全ク乾ケバ外皮ノ上半分ハ切レ切レニナツテハガレ、其ノ下カラ乳白色、半透明ノセロフアン紙様ノ内皮が現ハレ、丁度硫酸紙ニテ作レル風船ノ様ナリ。下半ニテへ内外皮ハ最後迄密着ス。」トアル。パラオノモノハ繭ノ上方カラ下方ニカケテササラノ様ニ細カク割レテ上方カラ種子が飛ビ出スダケデふうせんあさがほノ様ニシャレタ事ハヤラナイ。 ソレ故ニ MERRILL ノ意見ニ從ツテ Merremia ヲ用フル方がヨイ。ポナペ島ニモコレニ似タ別種がアルガ未ダ種名ハ明カデナイ。

- 5) 細川隆英氏ハ本誌 16 後 9 號デ小生が東亜植物圖說 3 卷 3 輯 239 頁、87 圖 = 發表シタ Gymnosiphon Okamotoi Tuyama, さいほんさらハ Gymnosiphon papuanus BECC. ノ 異名ニナルト言ツテキルが、小生が兩者/差トシテ擧ゲテキル點ヲ反駁セズシテハコノコトヲ言ヘナイ譯デアル。小生ハ G. papuanusトハ内外花蓋片ノ型及ビ柱頭ノ形狀ガ異ルコトヲ認メル。シカモ、コレラノ特徴ハ本屬デハ重要ナ標徴ナノデアル。小生ハ寧ロ Jonker ノ Burmanniaceae ノモノガラフ = G. papuanus トシテ擧ゲテアル バラオ本島ガショール産ノ標本(Ledermann 採集)ハ小生ノ種ト同ジモノデハナイカト疑ツテキル。 Jonker ノ研究シタノハ乾燥標本デアツテ、コノ類ノ植物デハ細カナ點迄見得ナカツタオソレガ充分アル。一方小生ハ生品デ觀察シ又極薄イ アルコール漬標本デ原型ヲ保ツテキルモノデ研究シ得タ。
- 6) 小生ハ植物學雜誌 54 巻 p. 267 デ Dendrobium elongaticolle SCHLECHTER ガパラ オ以外ニ新タニ ヤップ、ポナペニ分布シテキルコトラ發表シタガ、ソノ中 ポナペノモノハ D. flavicolle SCHLECHTER ノ貧弱ナモノラ見誤ツテキタモノデアツタカラ、ココニ謹ンデ 訂正スル。
- 7) 細川氏ガ本誌 13 巻 p. 280 デ Smythea lanceolata ガ トラックニモアル由報告シタガ、コノ種ハ シェーシェル島デ報告サレタ Ventilago lanceata ニ基イタモノデアルカラ當然 SUMMERHYES が組合セ變更ノトキ發表シタ様ニ S. lanceata ト綴ルベキモノデアル。
- 8) パラオ、ヤップ=多イ Nepenthes mirabilis MERRILL, 5つぼかづらハソノ珍ラシイ形ヲシタ葉ノ先端ノ所謂捕蟲嚢デ有名デアル。本種ハ數十種アル Nepenthes 屬中ニアツテ他ノ種が割合=限ラレタ狭イ範圍=生ズル=係ハラズ 屬ノ分布ノ全區域=亙ツテ生ズルト言フ面白イモノデアル。コレハ他ノ種ガ熱帶ノ原生林中ニ潜ムノ=反シテ、原野生ノ種デアルタメニソノ細イ種子が風ノ爲ニ容易=分布シタモノデアルト説明サレテキル。コノ學名ノ 著者ハ 普通知ラレテ居ル様= MERRILL デハナク DRUCE in Rep. Bot. Exch. Brit. Isles 1916, p. 637 (1917) ノ方がヨイ。 両者ノ發表ハ僅カ= 1 ケ月ノ差デ後者ノ方か早カツタカラデアル。コノ事ハ初島氏モ既ニ氣がツイテキタ由デアル。

9) 小生ハ今夏ミクロネシアノ植物ヲ調ベルタメニ九州帝大ノ金平亮三教授ノ標本室ヲ 訪レタ。ソコデハ初島住彦氏ニ大變オ世話ニナツタ。ソノ時見セテモラツタ標本中 Vanilla ponapensis Kanehira et Yamamoto ノ基準標本ノーツガアツタ。コレハ初島氏ニヨルト全然無葉緑ノ植物デ、赤色ヲ呈シ、木ニョツテ生ジ、ポナペ島ニハ時々見受ケラレル由デ アル。同氏ハ Schlechter ガポナペカラ發表シテキル Galeola sp. ニアタルモノデハナ イカト言フノデ、小生モョク調ベテ見テコレニ賛成シタ。ソレデココニ同氏ノ同意ノモト ニ新シイ組合セヲ發表スル。

Galeola ponapensis (KANEHIRA et YAMAMOTO) TUYAMA comb. nov.

Galeola sp. Schlechter in Engler, Bot. Jahrb. 52, p. 6 (1914); l.c. 56, p. 446 (1921).

Vanilla ponapensis Kanehira et Yamamoto in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. 23, p. 21. (1933).

上ノ事ハ又 2,3 年前細川隆英氏カラモ聞イタコトガアツタ。 或ハ臺灣デ蘭ヲ専門ニ調ベテキル福山伯明氏ノ意見ヲ細川氏ヲ通ジテ聞イタノダツタカトモ思フ。

10) 小生ハ初メミクロネシアノ Eurya ニ就イテハ簡單ニ考へテキタ。即チ、マリアナ (アラマガン島) ノ Eurya ladronica HosokAWA ハ日本内地、小笠原島、硫黄列島ヲ經テ 分布シテ來タ Eurya japonica BL., ひさかき系 ノモノデアリ、 パラオ 及ビ ポナペ産ノ Eurya palauensis Hosokawa, Eurya ponapensis Hosokawa ハ南方ニ廣ク分布スル E. nitida KORTH. ノ系統ノモノト思ツテキタ。所が先日或必要ガアツテ初島氏採集ノアラマ ガン島ノ E. ladronica ノ雌ノ標本ヲ調ベテ見ルト、柱頭ノ様子ガ細川氏ノ記載即チ"stylis abbrebiviatis...., a medis sursum 4-fidis...." = 合致シナイコトヲ發見シタ。 小生ガ 見タノハ柱頭が不完全ナガラモ 5 ツニ分裂シテヰル型ノモノデアツタ。コノ性質ハ最近ノ 新シイニューギニア探檢ノ結果得ラレタニューギニア大陸ニノミ限ツテ産スル珍ラシイ一新 取屬トシテ Kobuski ニョリ發表サレタ Penteurya (今迄 9 種知ラル) ニ→致スルモノデ アル。コノ事ハ分布上誠ニ興味ガ深イノデ更ニ九州帝大ノ標本ニツイテ 初島氏ト共ニ調べ テ確認シタ。又同時ニミクロネシア産ノ他ノ 2 種ノ Eurya ヲモー緒ニ調ベテ E. ponapensis モ明瞭=柱頭が 5 裂シタ Penteurya デアルコトガ判ツタ。細川氏ハコノ方=ハ ", stylus abbreviatus, glaber, e basi 4-fidus..."ト書イテヰルガ、コノ様ナ型ノモノモ混 ツテヰルコトガ判ツタ。 Penteurya ガニューギニアカラ更ニポナペ、マリアナニ分布ヲ擴 大シタコトハミクロネシア ト ニューギニアノフローラノ近縁關係ヲ示ス强力ナー證據デア ル。特ニマリアナ列島モ北方ノ新シイ火山島デアル所ノアラマガン島ニ本亚屬ガヒョツコ リト現ハレタ事ハ注目スベキコトデ、更ニ 北マリアナガー層精シク研究スル價値ヲ有スル コトヲ思ハセル。Eurya palauensisノ方ハEurya japonica等ヲ含ム廣分布性ノEuryodes 亜屬=入ルモノデアツタ。 ソレデ コレニ關スル限リ 分布上ノ 大キナ問題ハ 提供シナイ。 Eurya ニハ他ニ今一ツハワイニノミ限ラレタ Ternstroemiopsis 亞屬 (2 種ヲ含ム) カア No